

学校関係者評価結果報告（平成29年度）

平成29年10月11日（水）に本校ゼミ室において第1回学校関係者評価委員会が開催された。以下、その概要を報告する。

[かんな福祉専門学校 学校関係者評価委員]

氏名	所属
森 由光	埼玉県児玉郡神川町地域包括センター所長
星川美智子	特別養護老人ホーム 千鳥の丘 施設長
土屋 智史	介護老人保健施設 鬼石職員 卒業生 介護福祉士

1 学校関係者評価委員会の内容

(1) 開会 (2) 校長挨拶 (3) 委員及び教職員紹介 (4) 学校概要・平成28年度学校自己評価について (5) 学校自己評価の進め方 (6) 平成28年度学校自己評価及び平成29年度重点目標について (7) 質疑 意見交換

[配布資料]

①学校関係者評価委員名簿 ②学校案内・事業報告・行事予定・年度計画 ③職業実践専門課程パンフ ④学校関係者評価委員会規程 ⑤教育課程編成委員会規程 ⑥研修規程 ⑦学校評価の進め方 ⑧学校自己評価結果 ⑨29年度学校経営方針・重点目標 ⑩学生便覧

2 学校自己評価の考察

平成29年度の学校自己評価の全評価項目の達成及び取組状況の平均は、3.7という結果である。以下項目ごとに考察する。

(1) 教育理念・目標

取組状況指標は、3.5である。

学校の教育目標や特色は、概ね周知されている。学生層が多世代にわたり、保護者を必要としない学生も多いが、保護者や家族が来校しやすい環境づくりや、HPの工夫等を通して、保護者や地域に学校の教育目標や特色を周知していきたい。

(2) 運営

取組状況指標は、3.5である。

学校はほぼ適切に運営されているが、小規模校ゆえに、ひとり一人に多様な仕事が任されている結果、教職員が多忙である。分掌組織の見直し、仕事の効率化を図る必要がある。

(3) 教育活動

取組状況指標は、3.7である。

教員資質向上、指導力向上のための研修の指標が3.4と低い結果になった。多忙で時間的なゆとりがないという実情もあるが、研修体制を確立し、校内研修を充実させるとともに、校外研修にも積極的に参加し資質の向上に努めなければならない。

(4) 学修成果

取組状況指標は、3.7である。

就職率100%が維持されているので、指標は4.0という評価である。学業不振による中退者はいないが、家庭の都合や自己都合で退学する学生がいたことは残念である。平成28年度入学生から課せられる国家試験については、訓練生に関しては目的意識もしっかりしているので全員合格となったが、現役高校卒業学生は様々な取組を行ったが複数名が不合格という結果になった。学生たちが意欲を高めるための働きかけを再度検討し、今後は全員合格を目指したい。

(5) 学生支援

取組状況指標は、3.7である。

以前に比べ少人数数になっていることもあるが、学生一人ひとりに対して親身に対応しているので評価は高くなっている。卒業生に対しても学校での相談や電話相談などに応じているが、卒業生のキャリアアップについては、支援体制がやや不十分である。

高校との連携は、高校訪問・出前授業・分野別説明会・面接指導等を行っているが、高卒の入学生が少ない現状を鑑み低い評価となっている。連携内容の更なる充実が必要である。

(6) 教育環境

取組状況指標は、3.8である。

学生のライフスタイルが極めて多様化しており、一斉の研修実施は難しい。実情に応じてグループや個人の課外活動を支えていきたい。

(7) 学生の受け入れ募集

取組状況指標は、3.8である。

介護福祉士が激減する中で、地域性を考えると健闘していると思われる。しかし、これからも大きな課題である。

(8) 財務

取組状況指標は、3.9である。

学校の財務は、社会福祉法人神流福祉会が適切に行っている。財務の情報公開は、神流福祉会が学校を含めて行っているが、学校のホームページにも掲載する予定である。

(9) 法令等の遵守

取組状況指標は、3.9である。

学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会が適切に行われ、学校運営に活かされた。個人情報に関しては、今後もより一層徹底管理する必要がある。

(10) 社会貢献・地域貢献

取組状況指標は、3.8である。

地域住民参加型の行事、地域行事への学校参加、県の委託事業の実施等の取組状況に対する自己評価である。今後も地域に開かれた学校として、行事の精選、PR方法などについて改善し、地域社会に貢献していきたい。

平成29年度 かな福祉専門学校第1回学校関係者評価委員会議事録

日 時 平成29年10月11日(水)

10:00~12:00

場 所 本校ゼミ室

1 校長挨拶

学校の近況 他

2 協議

- ・学生だったころから訓練生はかなりのウエイトを占めていた。年齢の高い方たちもいた。訓練生の受け入れ基準が概ね45歳というのは現場から見ても疑問を感じる。
- ・就職氷河期だったころの方たちを救済したいという思いで概ね45歳としたようだ。
- ・40歳を超えてから介護の世界に転職してくる方も結構多いので、その芽を摘まないでほしい。
- ・年齢制限を設けることでさらに人材不足が深刻になるのではないかと。さらには、多くの外国人を受け入れることになるのではないかと。
- ・介護の世界では45歳は働き盛り。高齢者の方たちと生活する上で若い力も必要だが、40代50代の方たちは高齢者の方たちに寄り添うことができる。
- ・介護する人たちに夢を与えるような政策を期待したい。
- ・行政とすると国が決めたことを逸脱することはできない。決まった制度の中でやっていくというしほりがあるが、町独自の取り組みで補っている。今後大幅に増えていくであろう認知症に関しても取組を始めている。健康寿命を延ばすための取り組みも行っている。少子化がこのまま進んでいけば、担ぎ手がいなくなってしまう。現役世代がいなくなってしまうと、人口がどんどん減ってしまい、限界集落、町が消滅してしまうのではないかと。高齢者から子どもまで家族全体をフォローできるように神川町は保健士を増やしている。子どものときに仕上げてしまえば問題を引きずることはない。そのために子どもをすこやかに育てようというのがスローガンとなっている。高齢者に対しても包括センターを中心に様々な取組を行っている。
- ・100歳時代と言われている。施設にも90代が大勢いる。また、認知症などの治療薬などが開発されるとさらに長寿化が進む。
- ・若い人に介護の仕事に興味を持ってもらうのは非常に厳しい。親の介護に役に立つという理由から介護の世界に入ってくる40代50代が多い。
- ・かつては敬老の日には利用者の家族が施設を訪ねてくれた。今は、3連休にして遊びに行くようになっている。経済効果を考えればそれでいいのだろうが、本来の敬老の日の意味はなくなっていると思う。祖父母等と接することで福祉に関する興味関心をもってもらう良い機会であったのですが。
- ・高卒で介護の世界に入ってくる生徒は、祖父母と交流する中から興味関心を持った。
- ・学生募集に関しては大変苦しい状況であるが、前々年度並みになるよう努力したい。

3 その他

次回の会議予定について

